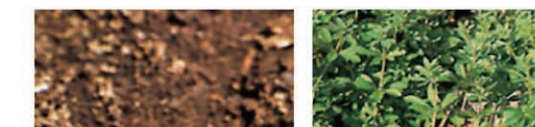


月 旬		11		12		1		2			3			4			5			6																												
		下		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上																													
生育経過	80	品種特性表																		収穫期の水分と適切な収穫法	成熟期																											
	60	<table><tr><th>種類</th><th>品種名</th><th>出穂期</th><th>成熟期</th><th>稈長</th><th>穂長</th><th>㎡穂当り数</th><th>耐倒伏性</th><th>10a子実重</th></tr><tr><td>小</td><td>シロガネコムギ</td><td>4.10</td><td>5.28</td><td>80</td><td>8.1</td><td>556</td><td>極強</td><td>53.2</td></tr><tr><td>麦</td><td>ミナミノカオリ</td><td>4.14</td><td>6.3</td><td>84</td><td>7.7</td><td>507</td><td>強</td><td>46.6</td></tr></table>																				種類	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	㎡穂当り数	耐倒伏性	10a子実重	小	シロガネコムギ	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	53.2	麦	ミナミノカオリ	4.14	6.3	84	7.7	507	強	46.6
	種類	品種名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	㎡穂当り数	耐倒伏性	10a子実重																																							
	小	シロガネコムギ	4.10	5.28	80	8.1	556	極強	53.2																																							
麦	ミナミノカオリ	4.14	6.3	84	7.7	507	強	46.6																																								
40																																																
20																																																
草丈 (cm)	播種適期																		登熟期間			収穫																										
主な作業	● 除草剤散布 ● 基肥 ● 種子消毒 ● 排水対策 ● 優良種子の準備																																															
	● 土壌改良材の施用 ● 赤かび病防除2回目 (ミナミノカオリ) 穂揃期追肥 ● 赤かび病防除1回目																																															

近年目立つ雑草類について

〈スズメノテッポウ〉	〈カズノコグサ〉	〈ヤエムグラ〉	〈カラスノエンドウ〉	〈イヌタデ〉	〈キンポウゲ類〉
 麦作における代表的なイネ科雑草で、播種直後の土壌処理剤と中耕土入れで防除できるが、多発すると極端に麦の生育を阻害する。	 湿田での発生が多いイネ科雑草で、発生期間が長いことから播種直後の土壌処理剤だけでは防除し難い。	 多発すると麦を巻き倒し、収穫作業に支障を来すこともある雑草で、発生初中期(1月～2月)に除草が必要。	 4月に赤紫の花が咲くマメ科植物で、麦収穫時に子実が混ざると調製で除去できないので、麦販売上の問題となる。	 発生場所は多くはないが近年目立つようになった雑草で、発生初期(1月中旬～2月中旬)に除草が必要。	 発生場所は多くはないが近年目立つようになった雑草で、発生初期(1月中旬～2月上旬)に除草が必要。

柳川の選ばれる 麦づくり運動

※実需者が求める品質の高い
麦づくりに努めよう!!

- シロガネコムギ(日本適用)
- ・タンパク9.7%以上～11.3%以下
 - ・灰分1.6%以下
 - ・容積重840g/l以上
 - ・フローリングナンバー300以上
- ミナミノカオリ(パン・中華適用)
- ・タンパク11.5%以上～14.0%以下
 - ・灰分1.75%以下
 - ・容積重833g/l以上
 - ・フローリングナンバー300以上

良質安定多収 8つの重点ポイント

1. 湿害（排水）対策
(弾丸暗渠の実施)
2. 地力増強
3. 種子更新
4. 種子消毒の徹底
5. 適期播種
6. 雑草防除
7. 赤かび病防除
8. 異品種の混入防止

地力増強(土づくり)

- ## 1.有機物の施用
- 稲わら：全量12～15cmの深さですき込む。
堆 肥：牛フン1～2t/10aまたは、
 アヅミン40kg/10a施用。
- ## 2.土壌改良材の施用
- 収量・品質の安定のために、ケイ酸質資材や
アルカリ資材を施用する。
- ケイ酸補給：土力の素 45kg/10a施用。
 とれ太郎 60kg/10a施用。
PHの矯正：炭酸苦土石灰 140～200kg/
 10a施用。
ケイ酸補給・PHの矯正：
 ミネラルG 140～200kg/10a施用。

赤かび病防除の徹底

「赤かび病」は麦の収量、品質に大きく影響します。特に、食品の安全性が問われる中で、かび毒であるデオキシニバレノール（DON）が取り沙汰され、農産物規格規程上、**赤カビ病被害粒混入限度0.0%**と厳しい基準となっています。

赤かび病予防を行うことが売れる
の最低条件となっています。

〈赤かび病〉



排水対策

- ①地下排水：有材暗きょ＋彈丸暗きょ
②表面排水：ほ場周囲＋畦間（枕地に溝を切り排水口に通す）
※水は湿害に弱いため、ほ場の排水性が収量や品質に大きく影響を及ぼします。
降雨後の水がほ場に停滞しないよう排水溝の整備を行いましょう。

播種時期及び播種量

☆品質向上と安定生産の為、毎年、全量種子更新を行い、
充実のよい種子を用いる。(10a当り)

種 類	播 種 適 期	播 種 量	
小 麦	11月20日～11月30日	シロガネコムギ	6～7kg
		ミナミノカオリ	

前年度ヤギシロトビムシの被害を受けた圃場では、播種適期の
範囲内でなるべく早く播種する。
※晩播限界 12月15日
注意) 晩播対策: 播種量を20～40%増量する。
大豆 後: 播種量を20%減らす。

種子消毒

薬 剤 名	対象病 害 虫	処 理 方 法
ペンレートTコート	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	種子10kgに 薬剤50gを 粉衣する。
アドマイヤー水和剤	ヤギシロトビムシ	種子10kgに 薬剤15gを 粉衣する。
クルーザーFS30	ヤギシロトビムシ (多発田)	種子10kgに 薬剤60mlを 塗染する。

※ベンレートTコートとアドマイヤー水和剤は混用できる。
※ヤギシロトビムシ多発田では、ベンレートTコートと
クルーザーF S30を混用する。

施肥基準

	品 種 名	基 肥	一 発 追 肥 (1月下旬)		穂揃期追肥 出穂10日後頃
		ちくごの めくみ444	麦追肥一発1号	硬質小麦用 追肥3004	硫 安
	成分(N-P-K)	14-14-14	24-0-5	30-0-4	21-0-0
水 稻 後	シロガネコムギ	40kg	40kg	—	—
	ミナミノカオリ	40kg	—	40kg	10kg
大 豆 後	シロガネコムギ	30kg	30kg	—	—
	ミナミノカオリ	20kg	—	30kg	10kg

※穂摘期追肥を尿素有葉面散布で行う場合は、開花期に実施します。
(5kg/100ℓ/10a×1回で硫安10kg/10aに相当)
高温時に尿素有葉面散布を行うと、葉焼け程度が激しくなる場合がある。
尿素有葉面散布の濃度が高いと葉焼けの程度が激しくなる場合がある。

赤かび病防除

品 種	防 除 適 期	薬 剤		10a 使用量
シロガネコムギ	※開花期 (出穂後 7～10日)	粉 剤	トップジンM 粉剤DL	4kg
ミナミノカオリ	1回目： 開花期(出穂後7～10日) 2回目： 1回目の5～7日後	液 剤	トップジンM 水和剤	1000倍 水100ℓ

※開花期に降雨が続く場合、シロガネコムギも赤かび病が多発するため、2回目防除(1回目防除の5～7日後)を行います。

麦 踏 み

12月下旬～2月下旬(本葉3枚頃～節間伸長開始)にかけて分げつ促進と徒長防止のために3～5回を目途に行う。土が乾燥し、茎葉に霜や露がない条件で実施する。茎立期以降は麦踏みはしない。

土 入 れ

1月中旬～下旬、2月上旬～中旬、3月上旬を目安として、
できるだけ麦踏み前に実施する。雑草や無効分げつの抑制、倒伏防止、
表面排水等に効果がある。

除草基準

	薬 剤 名	適 用 雑 草 名	使 用 時 期	10a当り 使 用 量 (希釈水量)	使 用 上 の 注 意
播種前	ラウンドアップ マックスロード		播種前 又は播種後出芽前	200～500㎖ (水100L)	・播種前の雑草が多い場合。 ・周囲の作物には飛散しない様に特に注意する。
土壌処理	リベレーターフロアブル	一年生雑草	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科1葉期)	60～80㎖ (水100L)	・幹上、整地は丁寧にを行い覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・土壌がしめりすぎていると効果むらや薬害の原因となることがある。 ・まれに麦の葉部に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
	リベレーター-G(粒剤)		播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科1葉期)	4～5kg	・幹上、整地は丁寧にを行い覆土深が2～3cmになるように覆土する。 ・土壌がしめりすぎていると効果むらや薬害の原因となることがある。 ・まれに麦の葉部に白化や黄化が見られることがあるが、その後の生育に影響はない。
茎葉処理	ハーモニー細粒剤F	一年生広葉雑草 スズメノテアオイ	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生初期)	4～5kg	・本剤が乾燥している時は、効果が現れる場合がある。 ・本剤を使用した後、ハーモニー75DFは使用できない。(どちらか1回のみ)
	ハーモニー75DF		播種後～節間伸長前 (スズメノテアオイ5葉期まで)	5～10g (水100L)	・カズノコグサに重点を置いた防除を行う場合は10g使用する。
	エコパートフロアブル	一年生広葉雑草 やムクゴ	節間伸長開始期まで (広葉雑草2～4葉期)	50～100㎖ (水100L)	・カラスノエンドウへの効果は低い。 ・乾草束部に軽微な白斑、白点などを生じるが、一過性でその後の生育に影響しない。 ・寒気以降には、白斑、白点が増加して発生するので使用しない。
	アクチノールB乳剤	一年生広葉雑草 カラスノエンドウ	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	100～200㎖ (水70～100L)	・高温時の散布は葉の黄化を生じるので注意する。
	バサグラン液剤	一年生広葉雑草 キンボウケ類	小麦の生育期 (雑草の3～6葉期) 収穫45日前まで	100～200㎖ (水70～100L)	・キンボウケ類に効果が高い。 ・低温、曇天時の散布は効果が悪くことがある。

注 ①ハーモニー75DF散布によって周辺作物に被害を与えるため、散布時の飛散(専用ノズルの使用)や散布後の流出に十分注意します。

②ハーモニー75DF散布に使用した器具類は消石灰500倍液を10分間噴霧させた後20分間放置し、排出後清水で洗浄する。

③ハーモニー—細胞剤を使用した後に、ハーモニー75DFは使用出来ません。

②更に開花時期に残った分を根こそぎ取り除く。

カズノコグサ、タデ対策：①前年度発生し場では排水対策を徹底し、播種直後の除草剤(リベレーターフロアブル、リベレーター-G(粒剤))を散布する。

②1月下旬～2月上旬にカズノコグサやタデに効果が高いハーモニー75Dを散布し、中耕・土入れを徹底する。

令和4年産麦栽培管理記入欄

品種名 作付面積		11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
シロガネコムギ	主な作業 a	弾丸暗渠	種子消毒	播種・基肥			麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ			赤かび防除(1回目)	赤かび防除(2回目)									収穫
		/ ~ 日		/ ~ 日		/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日													
		土壌改良資材			雑草防除			雑草防除	追肥	雑草防除															
		/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日			/ ~ 日	/ ~ 日		/ ~ 日							
ミニミカカリ	主な作業 a	弾丸暗渠	種子消毒	播種・基肥			麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ	麦踏み	土入れ			赤かび防除(1回目)	赤かび防除(2回目)									
		/ ~ 日		/ ~ 日		/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日			/ ~ 日	/ ~ 日									
		土壌改良資材			雑草防除			雑草防除	追肥	雑草防除					穂肥										収穫
		/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日	/ ~ 日			/ ~ 日	/ ~ 日		/ ~ 日							

実需者が求める品質の高い(Aランク)麦づくりに努めよう!!